



**6**  
2012

### 主題 (2011/2012)

**国際会長** Audere est Facere - To dare is todo  
「とにかくやろう-成せばなる」

**アジア会長** Audere est Facere - To dare is todo Mission with Faith  
「とにかくやろう-成せばなる」 「信念をもって使命をはたそう」

**西日本区理事** Contribute to the Community through Active Services with Love  
「ワイズの原点、愛と奉仕で社会に貢献」

**中西部長**  
「であいで愛」

**大阪クラブ会長** There is no time like the present: One for all, all for one  
「一期一会：ひとりひとりを大切に」

会長 牟 大 盛  
直前会長 脇 本 弘  
副会長 森 嶋 明  
清水 汎  
豊島 正  
書記 脇 本 博  
会 計 尾 和 信  
ブリテン 北 村 知  
連絡主事 松 原 三  
田 尻 幸  
邦

### 【今月の聖句】

「おはよう」とのあいさつも、  
こころをこめて交わすなら、その一日おたがいに、  
よろこばしく過ごすでしょう。

讃美歌第二編 26

### 【6月例会プログラム】(評価・計画月間)

とき：2012年6月12日(火) 18:15～20:15

ところ：大阪土佐堀YMCA 9階

司会 田尻 忠邦

1. 開会の鐘 牟 大盛会長
2. クラブソング
3. ゲスト・ビジター紹介
4. 会長報告
5. 「日々の糧」斉唱・晚餐
6. 今期の評価と協議
7. 誕生日・結婚記念日のお祝い
8. ニコニコ・インフォメーション
9. YMCAニュース
10. 閉会の鐘 牟 大盛会長

受付：向井、松原、清水メネット



於 5月特別例会

### 【第2例会のご案内】

とき：2012年6月19日(木) 19:00～20:30

ところ：大阪土佐堀YMCA 6階 601号室(変更になることがありますので、ご注意ください。)

今月のお誕生日：北村知三(07)

メネットさんお誕生日：田尻須賀子（０５）窪田ナナ子（０７）

結婚記念日：なし

## 【聖句に寄せて】

宇野 義男

子どもたちが幼稚園に入園したとき、初めて教わることは“挨拶”です。

言葉そのものの意味はまったくないが、しかし、そこで交わされる挨拶は、大変重要な意味をもっています。挨拶をばかばかしいと言って否定しきれるほど、私たちは人と人との結びつきに自信はありません。

「日本語の中で最も美しい言葉はなんという言葉だと思いますか」という、昔NHKの行った調査の結果が新聞に出ていました。勿論、美しい言葉というと、それこそ数え切れない程あるだろうが、この調査の結果によると、まず「美しい言葉といっても、一つの決まった単語としては答えにくい、話す人の人格と心構えとで、言葉の美しさが決まる」と言った人が全体で最も多かったようです。

「ありがとう」「おはよう」「ごめんなさい」など、上位は全て挨拶の言葉で占められていました。世界の平和を、国の中の平和を求める時、私たちは、身近な人たちと平和に過ごすことができないならば、平和な世界に生きることを私たちは期待できません。

一見習慣的に行われるように見える「挨拶」も、それが互いに交わされることによって、人と人との関係を暖め合い、整えるものとなります。

## 【６月出席状況】

6月出席状況		在籍	例会出席	アメイプク	メネット	ゲスト	ビジター	出席率	二献 コ金 ニコ
	正会員	14	8		3	8	1	57.2%	26,000円
	功労広義会員	4							
	合計	18	8		3	8	1		

ニコニコは清水汎メンの1万円の献金を含みます。

清水メンは今年、喜寿、金婚式、孫メネットさんの大学入学とお祝い続きです。

益々のご発展とご多幸をお祈り申し上げます。

5月例会の出席者

メネット：崔金順メネット会長、北村信子、脇本真知子メネット

ビジター：奥田時夫さん（土佐堀クラブ）

ゲスト：西村智恵、高土雄輔、桜木貴博、吉田亜衣、勝矢千晶さん（国際HH、OB&OG）

万並由美子さん（手話ボランティア）、川本かおるさん（大阪Y）、山佐亜津子さん（Y国際専門）

## 【今期を振り返って】

会長 牟 大盛

私は、1999年に大阪クラブに入会いたしまして、2007-8年の会長に続いて、今期2回目の会長を務めさせていただきました。会長職に座るたびに実感することですが、スムーズなクラブ運営の根幹はやはり、会員お一人お一人のご奉仕無くありえないということです。特に、2011年3月の東北大震災はワイズのあらゆる活動に多大な影響を与えてきました。例えば、周年記念例会を自粛した後、震災後1年が過ぎた2012年になり集中的に例会が続くなどがあります。日本の最初のクラブとしては、内外共々大事な役割があり、少数クラブながらもできるだけ手分けしまして記念例会に

ご訪問させていただくなど苦慮いたしました。そのため、特に神経を使っていたきました会員の方々には、心より感謝申し上げます。

大阪クラブは、2012年11月で創立84年を迎える日本最古のクラブであります。昨年8月には、遊上義一先輩を享年97歳で、そして今年1月には前島正一先輩を享年99歳で神の国に送る淋しくも先輩達のワイズダムを深く心に刻む機会となりました。

反面、昨年8月13日 15日間は、聴覚障がい(HH)国内キャンプを、東北大震災被災生徒2人を含めて六甲YMCA研修センターで大阪YMCAと協働して初めて開催できました。また、1970年度から継続しています、パサデナクラブとの交換学生ホームステイも20歳の大学生であるニコラス君を迎えまして、HHキャンプへの参加でHHキャンパーと貴重な交わりをただけでなく、いわく彼自身の人生に日本での体験が大いに変換をもたらすとのコメントを残しました。今年は、大阪クラブから孫コメントを送る予定であります。このIBC事業が永久に続くことを祈っています。また、ホームステイホームのメン・メネット様に感謝いたします。

今期の標語を「一期一会：一人ひとりを大切に」として参りました。でも、今期クラブ会員お一人お一人を十分にフォローできたかといえ、反省しきりでございます。そのなかでも、12月にはJICA(国際協力機構)で永年ご活躍をしておられます、五条孝次郎さんを新会員としてお迎えできましてクラブに活力を与えてくださるものと期待しています。

私は、クラブの成長は「魅力ある奉仕事業」に尽きるとと思っています。魅力ある事業は、結果的にEMCにつながり会員増員とユース会員の獲得に繋がるからです。

今年は、大阪YMCAは7月31日から8月8日間に香港・マカオで国際HHキャンプが予定されています。東北震災地域を含めた16歳以上のキャンパー20名、OBOGを含めたリーダー7名の総数27名を予定しています。ノーマライゼーションの渦中に普通校に埋もれて、孤立しています聴覚障がい児を何とか救うべく、国内キャンプと国際キャンプを交互に実施していくことにより、クラブ会員とYMCAが未来に夢を描けるものと確信いたします。今年の成功を来年の国内キャンプに繋げたらと祈っています。

## 【クラブ役員会報告】報告者：書記 脇本 博

日時：2012年5月15日19:00-20:30

場所：大阪土佐堀YMCA 601号室

出席者：牟 大盛 会長、北村 知三、松原 伸幸、脇本 博

### 協議事項

- 1) 6月例会プログラム(評価、計画)について協議した。

#### プログラム参照

- 2) 牟 大盛 会長から4月28日の「4者会談」について報告があった

Y側から末岡総主事、松野さんの2名、大阪クラブから牟 大盛会長、脇本書記の2名が出席し、青少年聴覚障害者教育支援事業の今後の展開について話し合いを持った。内容はブリテンに掲載します。

- 3) 今年度国際HHキャンプ'(7/31---8/8)への取り組みについて

キャンパー20名、手話通訳2名、Yスタッフ2名、OB&OG3名、計27名の陣容。府下の聾学校へパンフを持参し、広報を行う。

京都プリンスクラブにも連絡し、マイマイクラブの適齢OB達の参加を勧めて頂く。

今年はキャンパー20名の参加をなんとかしても確保したいと会長からお話があった。

- 4) 今後の予定

5月17日 大仙高校訪問 国際HH広報活動

5月24日 市聾学校訪問

5月24日(木)午後7時～8時30分に土佐堀会館6階601号室

Yスタッフ、OB達の国際キャンプに向けての打ち合わせ会

6月9日(土)～10日(日)第15回西日本区大会 彦根

出席予定 牟大盛会長、豊島、脇本夫妻

6月23日(土)午後0時 泉北クラブ (堺リーガロイヤルホテル)

出席予定 清水夫妻

5) 6月ブリテンについて松原メンから編集方針の説明があった。

## 2012年5月 特別例会 収支報告

(開催日: 2012年5月8日)

会計 尾和信孝

参加者合計 20名

### (1) 入金

会費 ; @5,000円X14名 ￥70,000円

大阪クラブ 11名

ゲスト・ビジター 3名

@2,000円X 6名 ￥12,000円

OB・OG、ボランティア 6名

(入金計 : ￥82,000円)

### (2) 支出

徐園への支払 ￥80,000円

(支出計 : ￥80,000円)

(3) 差し引き (計 : ￥2,000円)

\* 皆様のご協力に感謝

## **【5月例会報告】**

**田尻 忠邦**

5月例会は、特別例会ということで例年ならキャッスルホテルで行うところ、今年はHH国際キャンプが実施されるので、「HH国際キャンプへ向けて」というテーマでOB, OG, ボランティアも交えて話し合いを持つため、会場を肥後橋徐園に変えて開催されました。

第1部の通常例会の司会は、向井メンの担当でしたが、足の調子が悪く欠席されたので、急遽、牟会長が司会と会長報告の一人二役で進行されました。冒頭、向井メンが今期限りで退会されるという非常に残念な報告がありました。引き続き、5月28日(土)に牟会長、脇本書記と末岡総主事、松野部長とのHH国際キャンプについての話し合いの報告がありました。期間は当初の予定より1日延泊して7月31日から8月8日までの9日間。募集枠も7名増やして27名とし、OB, OGは3名、手話通訳者は2名、引率責任者は松野部長、引率補助は池田聡美スタッフの体制で参加するとの事。募集締切りは、6月6日で、大阪クラブはOB, OGと共に募集広報のお手伝いをします。具体的には昨年同様、大阪府内の聴覚支援学校訪問や、過去のHH国際キャンプの参加者に連絡入れたり、今年は、新たに難聴児童の野外活動を支援している京都プリンスワイズメンズクラブへの案内をしたりすることが予定されています。

HH国際キャンプ関係以外の会長報告として、5月13日(日)の豊中クラブの50周年祝賀会、6月9

日、10日の西日本区大会の出席の確認がなされました。また、今期をもって解散する豊中クラブの石橋ルキメンの大阪クラブへの転入希望が報告され、満場一致で入会が承認されました。ゲストとして参加された土佐堀ワイズの奥田メンと日本学校スタッフの川本かおるさんが、クリスマス献金のお礼を述べられました。同じくゲストとして出席された専門学校副校長の山佐亜津子さんが、今夏日本語学校が受け入れる韓国、台湾からの短期留学生100名のホームステイのお願いのアピールをされました。

第2部は中華料理をいただきながらの歓談を楽しみました。

第3部は、田尻の司会で「HH国際キャンプに向けて」のテーマで全体討議の時を持ちました。まず、末岡総主事から、4月19日の拡大基金委員会で報告のあった、今回のHH国際キャンプを最後に大阪YMCAは参加を中止する、との発言が言葉足らずであったことの説明をされました。さらに、大阪YMCAが公益財団法人となったことで、すべての事業を見直す作業を進めており、HH国際キャンプもその一つであること。会員活動としての障がい者プログラムの在り方。聴覚障がい者が、ミャンマーの聾学校を訪問して交流するような、障がい者が主体となるプログラムの可能性を模索していくことについて話をされました。次に、出席していたOB、OG5人が、口話と手話を交えてそれぞれの意見を発表しました。一般的な海外旅行とは異なり、HH国際キャンプは、海外の同じ障がいを持つ同世代の人たちと交流できる唯一のプログラムであること。HH国際キャンプで知り合った海外の友人とは、今でもメールを交換したり、互いに訪問したりしていること。言語が違っても口話以上に手話が通じたこと。参加国同士の手話が異なっているにもかかわらず、表情やジェスチャーでかなりのコミュニケーションができてとても楽しかったこと。YMCAにしかできないこのような素晴らしいプログラムを自分たちの後輩のためにも是非とも存続してほしい。そのためには、自分たちも出来る限りのことをすると、一人ひとりが、熱い思いを語ってくれました。例会参加者一同が、HH国際キャンプの優位性を再認識し、今年のプログラムの成功を誓って、定刻午後9時に閉会点鐘を聞きました。

## 【青少年聴覚障がい者教育支援事業の今後の展開について】

牟 大盛

### - 大阪YMCA経営者との話し合いの報告

2012年4月28日(土)17時から「徐園」にて、聴覚障がい者支援事業(HH支援事業)の今後の展開について、大阪YMCAの末岡祥弘総主事、松野時彦本部長、大阪クラブ脇本博直前会長、牟大盛会長の4名が下記のとおり話し合いを持ちました。

#### 記

#### 1) YMCAの公益法人に伴う全ての事業の見直し作業について

公益法人認定に伴い、今年と来年の1年半をかけて、全ての事業の見直し作業にはいる。

(これは 公益性 社会性 プログラム性などが見直しの基準となる)

大阪クラブの従来のHH国内・国際キャンプも当然対象となる。

今年の香港・マカオ国際キャンプは松野本部長を団長とし、従来どおり実施する。

今後の展開については、HH支援のより幅広い活動の拡大も可能である。

例えば、ミャンマーのヤンゴンをはじめとして聴覚支援学校との交流を追加的に図るなどがかんがえられる。

聴覚障がい児のノーマライゼーションの波のなか、普通校で孤立化している聾の学生を救うためにも、そしてYMCAが真の公益法人として社会に認識されるためにも、この HH支援事業は発展拡大こそすれ、衰退させてはいけない旨強調した。

#### 2) OBORGのリーダーとしての位置づけについて

YMCAのリーダーは本来、子供を対象としたウエルネスリーダーであり、毎年大学生を対象に募集しそのつどリーダー教育を実施するため、大半が社会人であるHHOBORGにリーダー教育には物理的に

無理があると思われる。

その代案として、行事ごとにリーダーをしてもらういわゆる「アクター・サポーター」なる制度の導入を考えている。この方式なら、OBOGの皆様もYMCAのリーダーとして位置づけられ、確固たる活動が可能となる。これは、いわゆる外部のミニマム・リーダー制度といえる。

### 3) HH支援事業の今後について

HH支援事業は、過去に大阪豊中クラブが始め、大阪クラブの70周年記念事業として受け継いで現在に至っているように、このHH支援事業は他クラブ(例えば、京都プリンスクラブの「マイマイ」支援事業)への呼びかけ、拡大も可能であり広がる可能性もある。

再度、このHH支援事業は公益法人の主軸事業としての資格は十分に備えており、今後YMCAの公益事業としての展開を強く望む旨伝えた。

### 「今年度国際HHキャンプへの取り組みについて」 牟 大盛

2012年5月8日(火)17:00から大阪YMCAにて、2012年度HH国際キャンプ松野時彦団長と参加スタッフの池田聡美さんと牟とで、今年の国際キャンプの概要に関し次のように協議いたしました。

次

- 1) 実施期間: 2012年7月31日から8月8日間とする: 当初より、1日延長し参加キャンパー相互の親睦深化と反省会などのため延長。
- 2) 参加キャンパーを総数20名(内、東日本大震災被災者10名)、OBOG3名、手話通訳者2名、YMCAスタッフ2名(松野団長と池田さん)の合計27名とする。(当初予定数より増員し、キャンパーの組み合わせについてはそのつど調節する。)
- 3) キャンパー参加費を15万円とし、参加申し込期限を6月6日とする。

### 【大阪堺クラブ設立50周年記念例会報告】 清水 汎

大阪堺クラブの記念例会が2012.5.11なんばパーク8Fレストランフュージョンで開催され、牟会長と私の2名が参加しました。18:55~21:00の間、第一部記念例会、第二部懇親会が行われ、最初に5分間 荒川静香がオリンピックで優勝した時の曲ソーランドの曲がCDで流され静かに参加の皆さんが聞き入りました、例会の始めにいつもこの曲を掛けるようです、

会は7:00から正式に始まり、谷川会長の点鐘、挨拶があり、来賓として末岡代表理事、浅岡西日本区理事、牟大阪クラブ会長の祝辞の挨拶がありました。

そのあと記念講演 浮島とも子さんの「夢」「希望」溢れる未来と題してパレー人生と神戸、東北の災害へのボランティア活動を青少年とともにやっている様子を30分は熱弁を奮われました、浮島さんは和歌山YMCAの井之上総主事とご結婚されており、来年の衆議院選挙に立候補されるようです、そして堺クラブに入会の予定のようです。浮島さんは前参議院議員で元文部科学大臣政務官を務められ、劇団「夢」サーカス主宰されています。

堺YMCAへ記念品として中久木館長に自転車一台が贈呈されました。

第二部懇親会では中久木堺YMCA館長の食前感謝、次期西日本区成瀬理事の乾杯、堺YMCAリーダー会藤波会長がニコニコを集められ東日本大震災の献金が行われました。食事はバイキング形式で行われ美味しい料理が沢山出て来ました。

会員の松田美穂、谷川会長のデュエットでタイムツセイグッバイの曲を素晴らしい歌唱力で歌われ、プロ並の音楽でした。大阪堺クラブ記念例会名誉委員長北山メンの謝辞があり、YMCAの歌を全員で歌い谷川会長の閉会点鐘で閉会となりました。

堺クラブが発足した時は46名で大変盛会でクラブがY M C Aを設立したようです。栄枯盛衰とは言え現在は8名の会員で頑張っておられます。皆さんは個性的で、渡邊メンのいろいろのアイデアを使って楽しい会をいろいろ企画され、それなりに会を運営されています。浮島さんが入会されると新しい堺クラブが誕生されるのではないかと多くの人から期待されています

## 【豊中クラブ設立50周年記念例会報告】

北村 知三

5月13日(日)午後、大阪豊中ワイズメンズクラブの50周年記念例会が、千里阪急ホテルで開かれました。同クラブは、今年度をもって解散となっておりますが、そのためもあって東日本区から青木一芳元国際会長(千葉ク)、石井一也元アジア会長(東京セントラルク)、奈良信元国際副会長(東京山手ク)など錚々たるワイズメンが出席。もちろん西日本区からも浅岡理事はじめ元理事の方々が出席され、また同クラブメンバーの中野寛成国会議員もご夫妻で出席、総勢150名に達せんとするほどの参加者でした。豊中クラブは、IBC事業など多くのワイズ活動の実績があります。Y M C Aサービス事業では特に聴覚障がい青少年のためのHH国際キャンプへの派遣において、当時北Y館長の宇野さん(現大阪クラブメンバー)がリーダーシップをとり、1975年から始められたものです。そして22年間に渡って豊中クラブが財的人的支援を続けました。その後宇野さんが大阪クラブに移り、この事業が引き継がれ現在に至っていることは、大阪クラブとしても親子関係以上の強い縁を感じます。

午後3時、クリスチャンの多い同クラブらしい礼節あるしかし親しみある式典から始まり、記念セレモニーでは和田会長挨拶の後、浅岡徹夫西日本区理事(近江八幡ク)と、末岡祥弘大阪Y M C A総主事の祝辞がありました。そして、記念講演は日本Y M C A同盟の島田茂総主事。「何がY M C A震災後復興事業なのか」と題して、東日本大震災復興へのY M C Aの活動状況から、自らの生い立ちの話へ移り、ご両親ともにY M C Aに係わっていたからこそのご両親の出会いと結ぶつきがあり、その結果自身が誕生し、気づけばY M C Aに深く係わっていると言う運命を語られました。「気がつけば私自身が復興事業の産物だった」というテーマでした。「Y M C Aの最大の力は、自己主張をするのではなく、人をつなげて育てるものであること。そして力を合わせて信頼し許しあうものであること」と話された。

そのあと、それまで集まった同クラブの基金から、Y M C Aとワイズの西日本区の事業に多くの献金がなされました。記念演奏での沙羅の木合唱団は、「からたちの花」や「赤とんぼ」など山田耕筰の童謡を歌いました。アフタヌーンティータイムでサンドウィッチやフルーツ、ケーキなど盛り合わせたボリュームある軽食が続きました。

最後に実行委員長の石橋ルキワイズの挨拶の後、和田早苗会長の挨拶では、ご子息も登場して会長の細腕でここ数年支えてきたにもかかわらず、心ならずも50年の歴史を閉じざるを得なかった、クラブへの思いが感極まって言葉に詰まってしまう、会長の気持ちを察して会場の拍手となりました。

豊中クラブが50年の歴史を閉じることはさびしいことですが、各メンバーは他のクラブへ移られて活動され、これからもワイズメンのところが引きつがれていくことが、この例会で確認されたと思います。大阪クラブから贈った大きな花の飾りが、豊中クラブのメンバーの皆様、50年のワイズ活動ご苦労様という思いで、壇上色をそえておりました。

大阪クラブからの出席者は、牟会長、清水さん、脇本夫妻、田尻さん、北村夫妻、それにY M C A総主事としての末岡さんでした。

## 【聴覚障害国際キャンプについて】

勝矢 千晶(HHキャンプOG)

聴覚障害国際キャンプ(以下、HHキャンプ)に初めて参加したのは、13年前。開催地「台湾」でのHHキャンプに参加した日々は今も鮮明に覚えています。初めての海外旅行で、同じ障害を持つ外国人と交流

することに対し楽しみ半分、不安半分の気持ちを抱えての旅。

初めて異国に足を踏み入れた時は日本との気候の違いにビックリ。さらに、食事や文化の違いカルチャーショックを受けたのを覚えています。当時の参加したHHキャンプに集まった国が台湾、香港、マレーシア、タイ、韓国、日本を含めて6カ国ぐらい。各国のキャンパーが集まって1週間キャンプを行いました。

コミュニケーション面においては、国ごとによって手話表現も違うので、戸惑いながらも、身ぶりで意思疎通をはかりながらゲーム等を進めていきました。カルチャーナイトで「さくら さくら」を踊り、クラブトでは各国の物の作り方を教えあったりして、HHキャンプ中、各国のキャンパーとの交流を深めることができたのは、私達にとって貴重な経験になりました。

そんなところがHHキャンプの魅力の一つで、私は翌年のマレーシアのHHキャンプにも参加し、台湾で会った香港のメンバーと再会できたのが嬉しかったのを覚えています。

同じ年頃のキャンパーが集まって、1週間一緒に団体行動するというのはYMCA以外では聞いたことはありません。このような企画が今日まで続けられていることはすごいと思いますし、今後も続けていって欲しいなと願っています。

## 【JICAシニアボランティアのチュニジア生活】

五条 孝次郎

### (その一) 車と私

チュニスに輸出振興指導員として赴任直後、所属した輸出振興庁では長官アドバイザーという大層なタイトルと隣室をあてがわれた。ただし会議、講習会などのお声が一向にかからない、企業訪問の希望を出してもアポ/配車が進められていない。この間の事情を「チュニジア人日本留学経験者の会」が聞きつけマーケティングセミナーを共同企画してくれた、これがキッカケで企業訪問にまで結びついた。売れない「芸者」にいいよ座敷の聲がかかり飛びあがって喜んだ。

2006年10月、チュニスへ赴任以来、ボランティアの分際、半年間車なしで過ごしていた。おかげで靴はすぐに履きつぶし、顔はアフリカの太陽で現地人そっくりに日焼けしていた。通りがかりの人には"Quelle route dois-je suivre?"など良く道を尋ねられ"Je suis Japonais."で終わり。とうとう有り金叩いてシトロエンの中古車セダンを購入した。定期的にメンテナンスはしていたという触れ込みであったがしょっちゅう故障。それでも徐々に行動半径が広がった。有難や！但しここは交通無法地帯、ヒヤリハットの連続、助手席に座ることが多い随伴家族＝家内は警報機のように喚きたてる。有難くなし！車中で過ごす時間帯が、そのまま危険と隣り合わせの時間でもある。太陽光発電の視察で南部への遠出、サハラ砂漠のクサルギレンに行った折は、さすがにチュニジアの知人に運転をお願いした。

発展を続ける首都チュニスでの毎朝のラッシュアワーは言わずもがな、雨降りの夕方のラッシュアワーはまさに生き地獄の様相を呈する。都心のT字路で缶詰状態、誰も道を譲らず、まさに「行くも地獄、戻るも地獄」、アラビア語の怒号が飛び交う中、仏の五条と言われる私もついに頭に来て大阪弁で対抗した、「クッソタレ！おまえら！なにやとんねん！」不意をつかれたオッサン連中が一瞬たじろいだ。間隙をぬって抜け出した。作戦成功。

話は変わるが、オリーブオイルを主体とした企業との面談は役所、事務所よりも原則として田舎の農園、工場で行うことを優先した。指導の原点を生産性向上による輸出振興としたので、現場主義を貫いていた。当然、形は百姓、我がシトロエンと共に田舎周りの時間が多くなってきた。天気の良い日のオリーブ地帯のドライブは快適であり、収穫期の工場の中はまさにアロマセラピー。咳込んでいたのも止まり、頭の回転もよくなる(?) オリーブとの関わりはこんな状況の中で日々広く深くなっていく。働き手の男女も顔を覚えてくれ、この変わったジャポネにスマイル&スマイル、まさに車のもたらした効果であろう。次回よりはいよいよ「西方見聞録 - オリーブと私」に入ります。乞うご期待！



## 【Y M C A ニュース】

### 大阪Y M C A 創立130周年記念

日 時： 6月 2日(土) 13:30～18:00

場 所： 大阪Y M C A 会館

内 容： 13:30～記念礼拝10階チャペル

14:30～会員大会9階903号室

16:20～記念事業 2 階ホール

「北米Y M C A のファンドレイジングに学ぶ」

### 第230回大阪Y M C A 早天祈祷会

日 時： 6月15日 (金) 7:30～8:30

場 所： 大阪Y M C A 会館10Fチャペル

証 し： 金 大東(キム デドン)さん(韓国ソウルY M C A スタッフ)

参加費： 300円(軽食付き)

## 【今後の行事予定】

今後の行事は、次のとおりです。積極的な参加をお願いします。

1. 第15回西日本区大会・・・6月9日(土)～10日(日) 於：滋賀県立文化産業交流会館  
長浜ロイヤルホテル

2. 泉北クラブ30周年記念例会・・・6月23日(土)12:00～ 於：堺リーガロイヤルホテル

3. HH国際キャンプ・・・7月31日(火)～8月8日(水) 於：香港・マカオ

参加希望者は、脇本書記宛(090-9286-0108 fax 06-6761-9713)ご連絡ください。

## 【CSより】

献品は下記住所をお願いします。

「釜ヶ崎いこいの家」 〒557-0004 大阪市西成区萩之茶屋2-5-23 : (06) 6631-2169

## 【編集後記】

今期のブリテン最終号です。皆様のご支援・ご協力のもとに、予定通りにブリテンをお届けすることができました。編集委員のアイデア枯渇・努力不足を皆様に救っていただいたことに、深く感謝いたします。来期も積極的な投稿をお願いするとともに、特に執筆機会が少ないメンバーに、投稿を強く要請したいと思っています。(編集委員：松原伸幸)